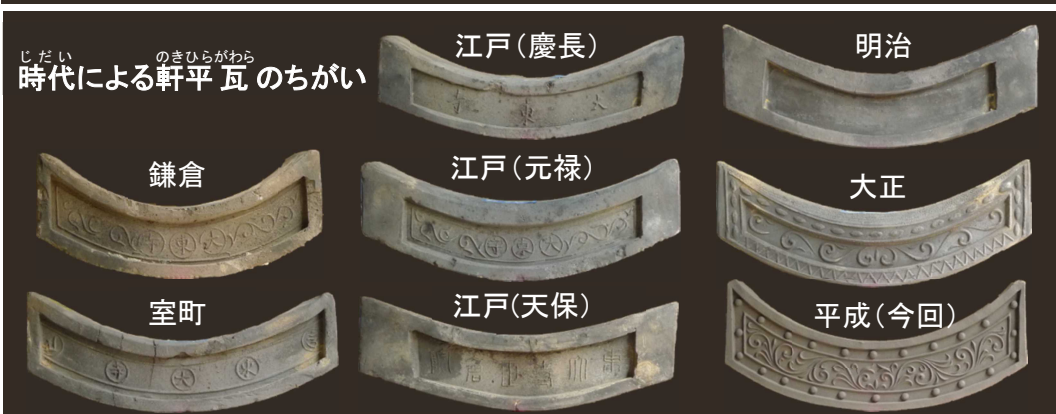


しょうそう
【正倉】

しょうそう なが しょうそういんほうもつ まも そうこ げんざい こくほう してい
正倉は、長いあいだ正倉院宝物を守ってきた倉庫です。現在、国宝に指定されて

います。
みやこ なら じだい なか しょうむてんのう とうだいじ ひら だいぶつ つく
都が奈良におかれた奈良時代の中ごろ、聖武天皇が東大寺を開き、大仏を造り
ました。正倉は、はじめは東大寺の倉として建てられ、正倉院の宝物も、もともと
聖武天皇ゆかりの品や、東大寺で使われた品でした。正倉がこの年に建てられた、
という正確な時期はわかりませんが、聖武天皇が亡くなった西暦756年に近い頃
と考えるとよいでしょう。大仏開眼の儀式が盛大に行われてから、あまりたっていない
頃です。

すがた しゃしん し こんかい こうかい ちが
正倉の姿は、写真でよく知られていますが、今回の公開では、それとは違った
迫力ある姿が感じられるでしょう。でも、古い建物です。手でさわっただけでも、
建物は傷みますので、さわらないようにしましょう。見学ルートは工事現場内でも
あります。順路を守り、足元に気をつけて見学してください。

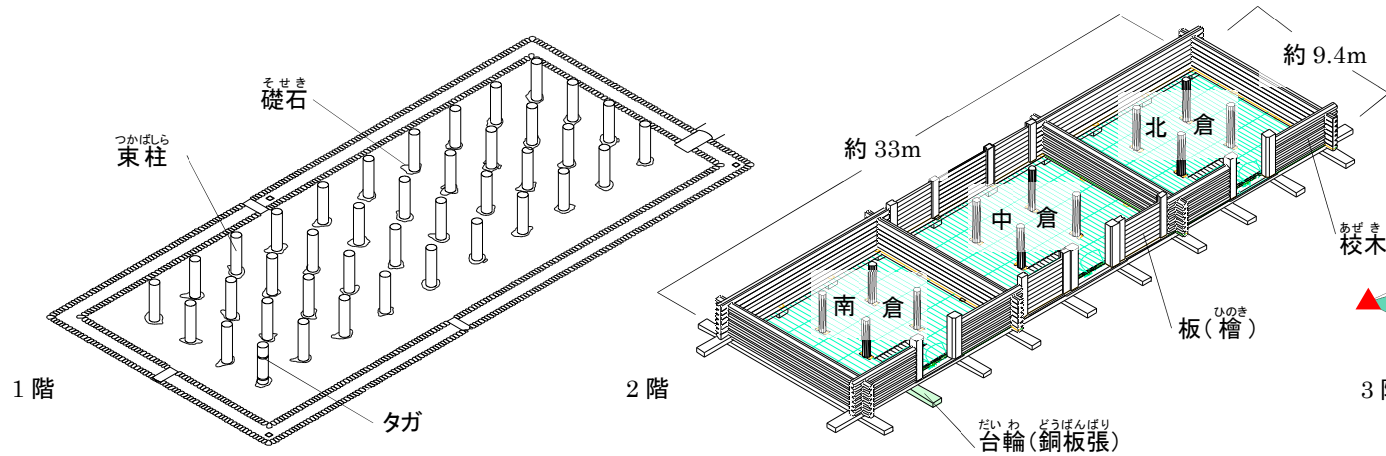


<1階>

1階では、倉を支える40本の束柱が見えます。この床下の高さが約2.7m。自然石の礎石の上に立っており、束柱の直径は60cm程です。

一部の束柱は鎌倉時代に交換していますが、それ以外の束柱はほとんど創建当時の木だと思われます。じっくり観察してみてください。表面がもろくなってデコボコしています。約1250年も正倉を支えて雨風に耐えてきた証です。

束柱に巻いてある鉄のタガや台輪の銅板は江戸時代につけられたものです。これらの一部は錆などでわるくなっていますが、そのままにしておきます。



<2階>

2階に上がると、独立した入口をもつ三つの倉が並ぶ正倉の構造がよくわかります。北(正面向かって右)から順に、北倉・中倉・南倉という名前がついていますが、三角の校木を組み上げた両端の倉(校倉造り)と、あいだに挟まれた中倉の作り方の違いに気がつきませんでしたか? そう、中倉は校木を使わず、板で壁を造っています(板倉造り)。材木は檜。建物正面の長さ(間口)は約33mです。

中倉の扉が開いていますね。のぞいてみて下さい。壁は普段見ることができない校木の内側です。

<3階>

3階では、正倉の屋根が見えます。地面から屋根の上までの高さは約14mになります。今は軒平瓦と平瓦を葺いている最中で、一部屋根の下地棧が現れています。傷んだ瓦は取り替えて、『建物がながもちするように』というのが100年ぶりに工事をおこなう大きな目的です。平瓦と軒先に使った瓦には、それぞれ特徴があります。その違いから、いつごろ作った瓦かがわかります。よく見てみましょう。

周囲の景色も、この機会で見なければ見られない絶景です。帰り道は、順路を守り、足元に気を付けて降りていって下さい。見学ありがとうございました。

